TOKIWA

2021
SUMMER
vol.204

INTERVIEW　自分も介護の必要なときは、こんなところで過ごしたい

特別養護老人ホーム
ときわ園

法人理念：利用者が尊厳を保ち、安心して暮らせる福祉施設をめざす
ときわ園に来て良かった、ときわ園にいるので安心できて幸せだと思っていただけるような明るく温かい福祉施設をめざします。

INTERVIEW

自分も介護の必要なときは、こんなところで過ごしたい
～ 常盤会の会計を支えるスペシャリストに聞く ～

今回は、常盤会の会計業務で活躍中の公認会計士・税理士　鈴木敦子先生にインタビューしました。常盤会の会計業務がどのように行われているかについても伺いました。

― 鈴木先生は公認会計士として活躍されていますが、どのようなきっかけでこのお仕事をするようになったのでしょうか？

ニュースで流れる、株価、為替等の言葉に興味をもち、このような経済社会を実際に見てその中で仕事をする公認会計士になりたいと思い、目指しました。

― どのようなご苦労がありますか？

仕事の基礎となる会計基準や法令等が改正されていくのでこれに対応するため常に勉強が欠かせません。子供が小さいときなどは時間がなく、通勤電車の中で新しい基準を読んでいました。また、パソコンを使うことが多く、パソコンの知識も必要です。また、棚卸（商品等を数えて在庫を確定させる作業）のときは、暑い倉庫の中を一日中歩き商品を数えたり、精密機械の工場では、専用の作業着を脱いだり着たりしながら、製品を数えることもあり、体力的な苦労もあります。

― どのようなときにこの仕事に就いてよかったと思われますか？

お客様から質問をいただき、回答を説明した時に“よくわかったよ。納得できた”と言っていただいた時はたいへんうれしく思います。また、いろいろな駅に降り立ち、様々な業種、規模の会社に赴き、お話を伺えるのが楽しいです。

― ときわ園にはどのような魅力があるか教えていただけますか？

私は、月に一度ときわ園に伺い、毎月の会計を拝見します。その中で、私から会計に関する質問をさせていただいたり、三枝理事長をはじめ、酒井施設長、石本事務長、会計担当の小池さん、篠原さんから問題点等を提起していただいたりしています。その問題点等については、議論を重ねて解決策を探します。その結果、必要に応じ、会計処理を変更していただいたり、業務内容を見直していただいたりします。会計というと数字だけを追いかけていくような印象があると思いますが、数字の背景にある人間の行動も一緒に追いかけることも必要です。ですから、よりよい会計処理を目指すなら、業務の改善にもつながっていきます。このようなことを積み重ねていらっしゃることがときわ園の会計に関する魅力といえるでしょう。そして、ときわ園のもう一つの魅力は、いつも歌声やゲームで盛り上がる利用者の方と職員の方の声が楽しそうに聞こえてきたり、お庭、館内、どちらもとてもきれいに掃除されていたりし、とても気持ちよく感じることです。自分も介護が必要なときは、こんなところで過ごしたいと思っています。このままのときわ園が続くことを望んでいます。

鈴木先生、この度はインタビューに応じてくださりありがとうございました。適正な会計処理を行うことができるよう今後もご指導をお願いいたします。

コロナ渦で心の健康を保つために

理事長
三枝 弘朋

長引くコロナ渦で感染対策が長期化し、多くの人が自粛疲れを感じているようです。読売新聞の調査によると自粛疲れを感じている人は68%に上ったそうです。ストレスや不満を感じている理由については多い順に、「外食や旅行に行けなくなった」、「人と会いづらくなった」、「感染対策が不十分な人がいる」、「マスクなど感染対策が煩わしい」などが挙げられていました。

最近、有名人が心の健康を害してしまったというニュースを頻繁に耳にするようになりました。自殺者が増加しているとも言われています。全てではないと思いますが、コロナが大きく影響しているのだと思います。

心の健康を保つ上で精神科医は、自分の限界を知って無理をしないこと、十分な休養をとる、家族を大切にする、趣味を持ってさまざまな人と交流する、ストレスマネジメントの方法を学ぶことなどを勧めています。コロナ渦で実践するのが難しい分野もありますが、努力する価値があると感じます。

他にも興味深いことに、心理学や社会学の専門家は人のためにボランティア的活動を行うことも勧めています。それによって、相手だけでなく自分自身の心身にも良い影響が及ぶそうです。福祉の援助技術の分野では、ヘルパー・セラピーの原則と言われるものがあります。この原則は、「援助をする人がもっとも援助をうける」ということを意味しています。このことを裏付ける「受けるより与える方が幸福である」という言葉もありますが、福祉や介護の仕事にも通ずるものがあると思います。

まさに、逆転の発想と言えますが、このような難しい状況だからこそ、他の人のことを考え、人のために役立つことをすることで、心の健康を保っていきたいと感じました。

西沢渓谷七ツ釜五段の滝/理事長撮影

ときわ園というステージで
― これからもつづく「ときわ劇場」

前施設長
田中 敬三

ときわ園でおよそ20年、そのうち8年以上を施設長として勤めてまいりましたが、このたび6月末に退職することになりました。事務員として入ったばかりの頃、買い物から電球の交換、車いすを押して利用者と外出、送迎、病院の受診、庭の掃除、雪かきなど何でも行ってきました。そのすべてが、雑用も含めて全部、高齢者の介護や福祉の仕事を行う上で大いに役に立ってきたものであり、今振り返れば楽しい思い出となっています。

どれほどの方々との出会いがあったのでしょうか…。すでに亡くなられた利用者とそのご家族、辞めた方も含めて幾百人もの職員、ボランティアの方々、そしてEPAの6期にわたるベトナム人訪日後研修における講義など、様々な方々との出会いがありました。「ときわ園というステージ」を通して毎週のようにいろいろなドラマが繰り広げられましたが、私たちはそれを「ときわ劇場」と呼んでハラハラ・ドキドキしながら「次週につづく」出来事に対応してきたものです。

2002年7月の「ときわだより」第1号を担当してからしばらく一人で編集・発行していましたが、今やTOKIWAも204号となりました。時は流れ、時代も移り変わっていきますが、これからも引き続き「ときわ園が愛される施設」として後の世代に受け継がれていくことを願っています。

フルート演奏を披露

いちご狩り

敬老会にて

デイサービスの活動

天気の良い日は麦わら帽子を…

他者交流を交えた歩行訓練

こもれびの庭での花の鑑賞

来年に向けて菜の花の種取り

色とりどりの花々を楽しんで…

こもれびの庭でのひととき

ジャガイモの種芋植え付け

インゲンの種まき

花壇の手入れ

初回時の問診

個別対応の可動域訓練

平行棒での下肢筋力訓練

花を摘みました

屋外での花摘み

歩行訓練中の合間の交流

こもれびの庭で花を楽しむ

※職員は撮影用にマスクを外しています

認知症の利用者の笑顔を大切に

ときわ園看護師
認知症看護認定看護師　**大野 敦史**

私は看護師として今年で26年になります。看護師として認知症治療病棟、一般病棟、デイケア、訪問看護等、様々な現場で働いてきました。その中でも認知症の方との関わりは大好きです。2015年に認知症看護認定看護師の資格を取得し、認知症の方の生活が円滑に送れるように看護実践してきました。認知症の方とともに、私自身も看護師として成長することができました。現在も看護実践を通しながら自分も認知症の利用者さんの笑顔に支えられていることを実感しています。

私の看護師としての信念は「患者さんや利用者さんの心と笑顔を大切に」「ADL（※）を維持しながら笑顔で生活を送れるように」です。ときわ園において、利用者さんと同じ目標に向かって一緒に進んでいける関係を築きながら最後まで笑顔でその人らしさを保ち生活を送れるように支えていけたらと思っています。

職員の抗原検査を行っている

※ADLとは、日常生活動作のことで、食事・更衣・移動・排泄・整容・入浴など生活上の不可欠な基本的行動を指します。

安心安全と尊厳保持の両立に挑戦！

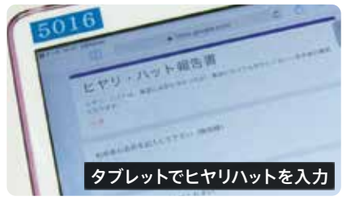
事故防止委員会
委員長　**松島 健**

事故を予防し、安心安全に暮らすためには何が必要でしょうか。「生活を管理」し、制限、抑制してしまえば事故は減らせるかもしれませんが、これでは尊厳が保持された状態とは言えません。

事故防止委員会では、ご利用者の安心安全と尊厳の保持の両立を目指しつつ、「リスクを管理」するという視点から事故防止に取り組んでいます。具体的には、「ヒヤリとした」事例をその場で素早くGoogleフォームに入力できるようにして、リアルタイムで情報共有を行っています。また蓄積されたデータを元に危険予測をし、事故防止に役立てています。

仮に事故が起きてしまった場合、「ご利用者本人の要因」「支援者側の要因」「環境の要因」の3つの視点から分析をし、再発防止策を考案しています。

このように、利用者の状態や感じる不安、取り巻く環境、職員の体制等、包括的な視野からのデータ分析を行う事で、抑制に頼ること無く、安心で安全な暮らしのための対策を立てられると思います。今後とも、利用者の皆様が安心安全に、自分らしく暮らせるよう支援してまいります。



タブレットでヒヤリハットを入力

天皇陛下からの贈り物を大切に ～ときわ園のコブシ～

管理栄養士
谷口 亜弥

ときわ園の設立は1983年4月9日。今年で38周年になります。市内でも民間では4番目の長寿施設です。

平成14年に天皇陛下（現在の上皇陛下）から奨励賜りました。同年12月25日に伝達式が行われ、御下賜金を賜りました。同時に、ときわ園は優良社会福祉施設として表彰されました。賜ったご祝儀袋と、その時の新聞記事は今も大切に園内に掲げられています。

御下賜金をどのように使わせていただいたのでしょうか。コブシの植樹に使わせていただきました。コブシの花言葉は「信頼」「友愛」「歓迎」など、人の好意的な感情に関係しています。コブシの樹は数年かけて土地に馴染み、今では毎年美しい花を咲かせています。過日の台風にも負けず、今年も花を咲かせてくれました。これからもときわ園を見守っていくことでしょう。

「LIFE（科学的介護情報システム）」とは何か？ ～令和３年度介護報酬改定から～

介護職長
井上 宏樹

介護保険制度は、利用している方が必要な時に、必要な分だけ、効果的にサービスを受けることのできる制度にしていく必要性があります。その結果、「働き方改革（根拠に基づいた介護の実践）」と「利用者に対するサービスの質の向上（より効果的な介護サービス）」を両立できる「介護」システムが必要になりました。それがLIFE（※）だと考えますし、令和３年度介護報酬改定の中に織り込まれているものでもあります。

さらに、LIFEとは、新しい介護様式ではなく「介護記録等によって蓄積された介護情報等を統一した様式により提出し、その客観的事実に基づく根拠（エビデンス）や情報を分析して、その結果（どこの何が一番利用者の方々の目的に合致するか等）を利用者及び介護者等に提供することで、利用者自身が望む（望まれる）介護サービスを選択し、自立を促進する事ができるシステム」とも言えます。

LIFEについては、今後さらにシステム化・データ化され、利用者の方にも他の関係者の方にも使いやすくなると思われます。そして、ときわ園ではLIFEを有効活用した上で、認知症ケアや看取り介護を行っていくことが進むべき道だと考えています。さらに、ときわ園の理念である「利用者が尊厳を保ち、安心して暮らせる福祉施設をめざす」ことで、利用している方々が「幸福感」「安心」そして人生の満足感等が生まれるように、生活の視点を重視し、本人の主体性を引き出すようなケアを提供していきたいと願っています。

※LIFEとは、「科学的介護情報システム（Long-term care Information system For Evidence）」のことで、日本中の介護データを国の集中管理システムに一元的に集める取り組みです。

常に謙虚に、いつも慎みを

新施設長
酒井 章年

この度、特別養護老人ホームときわ園の施設長となりました酒井章年と申します。長年のときわ園勤務の経験を活かし、管理者としての職務を果たしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私が高校時代から大切にしてきている本があります。それは、中谷宇吉郎著「科学の方法」（岩波新書）という本です。中谷博士は、北海道大学で雪の結晶の研究を行った著名な物理学者です。学生時代の私は科学万能を信奉するほど科学が大好きでしたが、そのような私に一撃を加えたのがこの本です。

第一章の中でいきなり、「もちろん科学は、非常に力強いものではあるが、科学が力強いというのは、ある限界の中での話であって、その限界の外では、案外に無力なものであることを、つい忘れがちになっている。いわゆる科学万能的なものの考え方が、この頃の風潮になっているが、それには、科学の成果に幻惑されている点が、かなりあるように思われる」と指摘しています。科学第一の傾向にあった私には痛烈な戒めでした。

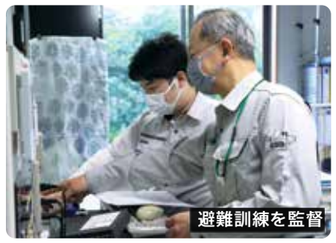
その後の私の人生はというと、この本から学んだ生き方になって然るべきでしたが、実際にはそうではありませんでした。恥ずかしながら謙虚と慎みに欠けた行動が多かったように思います。それでも、たくさんの失敗を重ね、謙虚と慎みの大切さを繰り返し教えられたのは貴重な経験でした。

謙虚と慎みは新たなものを生み出す原動力となります。この本の最終章では、ボーア、ラマン、コンプトンといった科学者の一連の研究成果が花開いた時期について触れています。その頃、ある人がチャドウィックに「これで原子論方面の問題は、一応片付いたようなものですね」と言いました。ところがチャドウィックは、「まだたくさんすることはあるよ。There is a lot of things to do.」と答えたそうです。その数年後、チャドウィックは中性子を発見、それが今日の原子物理学の礎石の一つになりました。科学が頂点に達しているなどと思い違いすることなく、むしろ科学の限界を知ってこそ新分野が拓かれてきたのです。謙虚と慎みがなければ、このような画期的発見はなかったでしょう。

ときわ園の施設長として、このような謙虚と慎みを常に忘れないで仕事をしていきたいと考えています。そうすれば、新しい素晴らしいものが生み出されると確信しています。

消火器訓練を監督

ラッキーの世話係でした


避難訓練を監督

活動ログ

3 - 5 月　バルコニーで日光浴を

本館2階には、車いすでも出ることができるバルコニーがあります。暖かく穏やかな日には、利用者の皆さんをお誘いし、おやつを召し上がってもらったり、洗濯物を干してもらったりしています。日光浴をしながら、野鳥のさえずりを聴き、新緑を眺め、プランターの花を愛でていると、本当に気持ちが良いです。

日光浴は人も植物と同様、エネルギーをもらえるような気がします。日光浴ができると免疫力のアップにつながり、夜間の睡眠の質も良くなると言われています。少しの時間でも、屋外で過ごしやすい時には屋外に連れ出せるように職員も工夫しています。

4 月　車窓から ～瀬又のこいのぼり～

毎年4月から5月にかけて、近くの村田川の瀬又という場所で、こいのぼりが泳ぎます。以前はよく利用者をお連れしていましたが、昨年はコロナ禍のため行くことができませんでした。今年は、感染防止対策をしっかり行うことを前提に企画し、本館の利用者を数名お連れして、車窓からのこいのぼり見物を楽しみました。

久しぶりの外出でしたので、参加した利用者の皆さんも気分転換ができました。まだまだ外出するには難しい状況が続きますが、創意工夫しながら、利用者の皆さんに寄り添って一緒に生活を楽しんでいきたいと思います。

5/17-21　茶娘がやってきました！

新茶の時期には、恒例行事として「茶娘」が利用者の皆さんに新茶を振る舞います。職員がお揃いの衣装を着て登場すると、皆さんも喜んでくださいます。一緒に同じ衣装を着るのも楽しいですね。

一番茶は栄養価が高く、うまみ成分も多いと言われています。体にも良いと聞けば、一層美味しく感じますね。

5/30, 6/20　利用者へのコロナワクチン接種

千葉市のワクチン接種スケジュールに基づき、ときわ園の利用者（主に長期入所者）に対するワクチン接種が実施されました。1回目は5/30（日）、2回目は3週間後の6/20（日）に設定され、協力病院の斎藤労災病院から斎藤院長と看護師が来園されることになり、準備が入念に進められました。当日は万全の体制を整え、医師による回診の後、順次、接種が行われました。

一方、職員に対するワクチン接種は、6月から7月にかけて、勤務を調整して数人ずつ斎藤労災病院に送迎して接種することになりました。この広報誌の発行時には、職員への接種もほぼ終了していると思われます。

もちろん、接種したからといって油断はできません。職員一同、引き続き、感染予防対策に力を入れ、自らの健康と利用者の健康を守るために最善を尽くしていきます。

当日は朝礼で流れを確認

居室を訪問して回診

2 チームで接種

編集後記

”状況の変化”は、良いこともあれば大変なこともあります。年を重ねることは、健康面ではだんだんつらくなりますが、人生経験という面では円熟さを増していくので良いことといえるかもしれません。では、職場での変化はどうでしょうか？ときわ園でも大きな変化が時々生じ、大変に思える時があります。でも、そういう変化を、ポジティブに捉えることができれば、きっと未来は明るいでしょう。

社会福祉法人常盤会
〒266-0004 千葉県千葉市緑区平川町1731
TEL 043-291-2788 FAX 043-291-2799
https://www.tokiwa-en.or.jp

表紙写真：ときわ園のユリとアゲハチョウ / 撮影：田村 知之